

日本海沿岸の最大クラスの地震・津波による被害想定

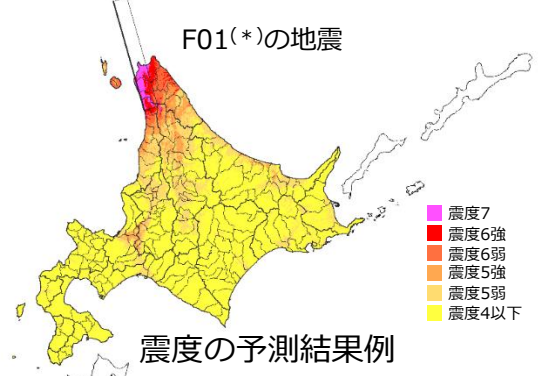
背景

日本海沿岸の最大クラスの地震・津波から「命を守る」ため、具体的な被害を想定し減災対策を行うことが重要。

成果

1 地震ハザードの評価

日本海沿岸15地震について震度分布や液状化・急傾斜地崩壊の危険性を評価



期待される効果

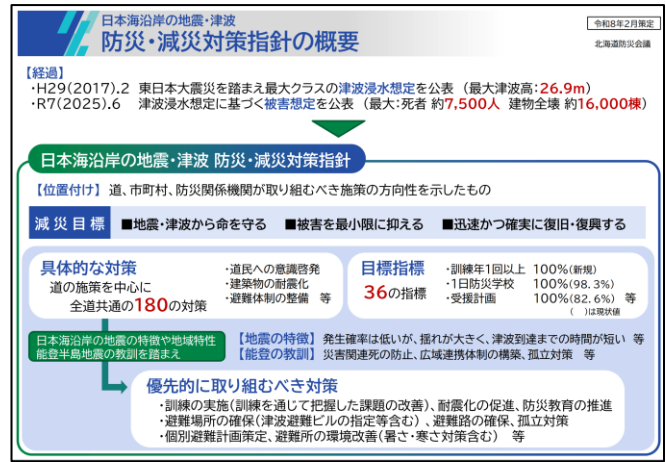
2 被害量の推計

建物被害、人的被害（死者・負傷者）、避難者数、インフラ・ライフライン被害等を推計

被害想定結果（死者と建物被害）

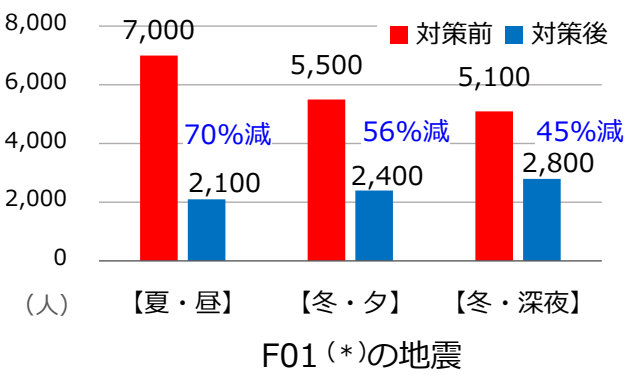
想定項目		F01(*)の地震		
		夏・昼	冬・夕	冬・深夜
死者数	津波	約7,000人	約5,500人	約5,100人
	建物倒壊	約80人	約470人	約600人
建物倒壊棟数		約5,300棟	約12,000棟	約12,000棟

※ 死者数は、早期に避難する人が少なく津波避難ビル等への避難を考慮しないケース



3 減災対策効果の予測

早期避難を可能とする対策を実施することによる、津波死者数の低減効果を明らかにし、指針へ反映



道の「防災・減災対策指針 (R8.2)」に反映されており、道内市町村の地震・津波対策で活用される。